

平成28年度病虫害発生予察予報第5号（8月）

平成28年8月3日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稻（普通期稲）	いもち病（穂いもち） ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ トビイロウンカ	平年並（県下全域） 平年並（中央、中西）、 <u>やや少（東、西）</u> <u>多（東、西）、やや多（中央、中西）</u> <u>多（中央、中西）、やや多（東）、</u> やや少（西） 少（県下全域）
かんきつ類（温州みかん）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	やや少（中央） <u>多（中央）</u> やや少（中央） やや多（中央） 少（中央）
かんきつ類（中晩柑類）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多（中西、西）、やや多（東）、</u> やや少（中央） <u>多（中西）、</u> やや多（東、中央、西） <u>多（中央）、</u> やや多（中西、西）、平年並（東） <u>やや多（中央）、</u> 平年並（東、中西、西） 少（県下全域）

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 7月28日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞7月30日から8月29日

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は1週目は平年並または高い確率ともに40%です。2週目は平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	20	40	40
		降水量	20	40	40
		日照時間	40	40	20

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	40	40
2週目		40	40	20
3～4週目		20	40	40

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：7月30日（土）～8月29日（月）

1週目：7月30日（土）～8月5日（金）

2週目：8月6日（土）～8月12日（金）

3～4週目：8月13日（土）～8月26日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻（普通期稲）の病虫害

1) いもち病（穂いもち）

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

(1) 7月の調査では葉いもちが県下全域で発生が見られた。県東部では発生面積が多かったが、他の地域では平年並の発生であった。また、発生程度は県東部、中央部、西部で平年並、中西部は低かった。

(2) 8月の降水量は平年並～多めと予想されているが、気温も平年並～高めと予想されているため、穂いもちの発生は平年並になると考えられる。

対 策

(1) 出穂前に進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。

(2) 本県での発生は確認されていないが、他県ではQoI剤の耐性菌が確認されている。

QoI剤耐性菌発生を防止するため、これらの剤の使用回数は作期を通じて1回以内

とする。

(3)窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ツマグロヨコバイ

予想 発生量：平年並（中央部、中西部）、やや少（東部、西部）

根 拠

(1) 7月の調査では県下全域で発生が見られたが、全般的に発生面積は少なめ、密度も低めであった。

(2) 8月の気温は平年並～高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 近年、本県における発生は見られていないが、本虫は萎縮病を媒介するので発生に注意する。また、出穂期から登熟期にかけて密度が高密度になると、実入りが悪化することがあるので注意する。

3) セジロウンカ

予想 発生量：多（東部、西部）、やや多（中央部、中西部）

根 拠

(1) 7月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部で多め、西部ではやや多めであり、西部では密度もやや高めであった。中央部、中西部では発生面積は平年並、密度も平年並～やや低めであった。

(2) 8月の気温は平年並～高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) セジロウンカはトビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫であるため、ほ場内での発生に注意する。多飛来があった場合には、産卵痕や吸汁により生育被害が出る可能性があるため注意する。

4) ヒメトビウンカ

予想 発生量：多（中央部、中西部）、やや多（東部）、やや少（西部）

根 拠

(1) 7月の調査では県西部以外で発生が見られた。発生面積は県東部は平年並、中央部、中西部は多めであったが、いずれの地域も密度の高いほ場は見られなかった。

(2) 8月の気温は平年並～高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 本虫による直接被害は少ないと思われるが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

5) トビイロウンカ

予想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 7月の調査では発生は見られていない。また、他県でも目立った発生は見られていない。

対 策

(1) 株元に寄生するので、防除を行う場合は株元に薬剤が十分かかるようにする。

2 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：やや少（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では発生面積は少なめ、発病程度はやや低めであった。
- (2) 8月の降水量は平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では発生面積が多く、発病程度もやや高めであった。
- (2) 8月の降水量は平年並～多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：やや少（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では発病が見られなかったが、8月の降水量は平年並～多めと予想されているため発生すると考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや多（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では発生面積はやや多めであり、密度も高かった。
- (2) 8月の気温は平年並～高めと予想されているため、密度増加は緩慢になると考えられるが、現在の状況から7月と同様の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査ではほ場での発生は見られておらず、フェロモントラップへの誘殺もほとんど見られていない。

対 策

(1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

3 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（中西部、西部）、やや多（東部）、やや少（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では県中西部、西部で発生面積が多かったが、発病程度は平年並であった。中央部での発生は見られなかった。

(2) 8月の降水量は平年並～多めと予想されているため、既発ほ場での病勢が進展すると考えられる。

対 策

(1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（東部、中央部、西部）

根 拠

(1) 7月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部でやや多めであったが、他の地域では平年並であった。また、発病程度の高い地域は見られなかった。

(2) 8月の降水量は平年並～多めと予想されているため、病勢が進展すると考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（中西部、西部）、平年並（東部）

根 拠

(1) 7月の調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では発生面積が多めであったが、発病程度は平年並であった。他の地域では、目立った発生は見られなかった。

(2) 8月の降水量は平年並～多めと予想されているため、病勢が進展すると考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや多（中央部）、平年並（東部、中西部、西部）

根 拠

(1) 7月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部でやや多め、他の地域は平年並であった。密度は中央部、中西部で高かったが、東部ではやや低め、西部は平年並であった。

(2) 8月の気温は高めと予想されているため、密度増加は緩慢になり、7月と同様の発生が続くと考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメモシ類

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 7月の調査ではほ場での発生は見られておらず、フェロモントラップへの誘殺もほとんど見られていない。

対 策

(1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

こうち農業ネットサービス※

・携帯電話を使った病害虫関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（Iモード）

トップメニュー→地域情報→タウカ`仆`・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メニュー→タウ情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：（ヤフー）

- ①病害虫発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります